《 全国へ戻る
← 前のツアー
次のツアー →

2023年10月26日

あなたのいい場所でありたい〜イメージチェンジ！こども食堂〜

「公開ワークショップ　話そう！広めよう！食べるだけじゃない！？こども食堂で起きていること」in宮崎　開催レポート

こども食堂10周年記念全国ツアー「公開ワークショップ　話そう！広めよう！食べるだけじゃない！？こども食堂で起きていること」。
全国47都道府県でワークショップを開催しようという本ツアー、第9回目の開催地は宮崎県。2023年9月23日、都城市中央公民館大会議室で行われました。
宮崎県には現在31市町のこども食堂があり、その約半数が宮崎市内、中・離島部南にあり、地域のつながりづくりへの意欲が窺われています。今回のワークショップは、みやざき子ども未来ネットワークとぱんち地域子ども食堂ネットワークの共催で、宮崎県都城市に「開催されました。「こども食堂は、限られた人だけが訪れる場所」という印象を変えたいとの主催者の思いから、「あなたのいい居場所でありたい〜イメージチェンジ！こども食堂　〜」というテーマを掲げ、こども食堂を運営するカウンセラ心理士に講演を依頼するなど、地元の高校生がボランティアで会場運営を手伝い、幅広い世代の集う賑やかなひとときとなりました。
それでは、今回も参加者のみなさまが実際に経験したエピソードをもとに話られた、「食べるだけじゃない」こども食堂の魅力をご紹介します。

多世代の集りどころ、こども食堂

ネクアーで実施するワークショップでは、こども食堂の運営者のみなさまに、一人ずつ心に残っているエピソードを伺っています。どのエピソードも、ハッとさせられたり、心温まったりするものばかり。特に印象的だったエピソードを抜粋してご紹介します。

“お客様”からお買い気支え合う存在に

年田野子ども食堂（都城市年田野）　有川美穂子さん：
約3年前から来てくれる中学生の男の子がいます。当時は小学5年生、家族で来るのも嬉しそうでしたのですが、声をかけても「僕は食べない」と言。私もこども食堂を始めたばかりの頃で、接客の経験が…、見ず知らぬ子が来て、家族で楽しんでほしいとは、家族の中で居ずらい思いをしてしまうかと、これではいけないと、あるとき「ぼのちゃんが作ったんだから、食べてーよ」と方言で話しかけてみたのです。すると、彼の表情が変んだのです。その出来事をきっかけに食べてくれるようになり、今では家族を連れて来てくれています。私が笑いの輩しかを変えたのは、彼に居心地のいい場所をつくってみたいと思ったから。料理への関心が高いことに気づき、お手伝いの中での感想を聞いたり、次のメニューの相談をしたりしています。ここの居れの中に場が出は中遮かった！なぜ家族と感想をくれるのか、私も嬉しくなります。地域には誰だ、「こども食堂でお弁当をもらうのは恥ずかしいこと」と感じられる方もいるようです。活動を続けながら、誰もが気を楽りやすい場所にしていけたらと思います。

年田野子ども食堂（都城市年田野）　有川美穂子さん

みんなでつくる子どもの成長の場

地域食堂まる（都城市太郎坊町）　松山高由子さん：
私たちのこども食堂では、大広間で幼児から高齢者までみんなで集まって食べています。コロナ禍も一度だけかにしたことはありますが、会食を続けてきました。音楽の前には、地域の方の能芸家が演奏があり、みんなで経験を共有することを大事にしています。あるとき、小学校高学年の兄弟が来てくれたのですが、どうも内気で、話しかけても一人がからみ声でなんとか返事をしてくれるくらい。一人は6ヶ月の頃に預けてしまっていたし、食事はおいしく食べてくれたので、最初は口ごもっの調子へ始めの、お手伝いに誘ったりしていろうちに、だんだんと顔になりたいってくれました。5回目くらいからはお手伝いにも参加し、今ではすっかり連絡帳も届くこいます。小さい子が好きなようで、片づけ後には好んで絵手をしてくれ、楽しく遊ぶ姿を見られるようになりました。周囲からっとした声掛けや優しさが子どもの力を引き出し、子どもは自ら成長していくことができるのだなと嬉しく思う出来事でした。

地域食堂まる（都城市太郎坊町）　松山高由子さん

高齢者にはによと元気を届ける地域食堂

地域食堂イロトドリ（都城市下長飯町）　谷口敏代さん：
私たちの食堂がある地区は高齢者が多く、子どもが少ない地域です。国は外の子ども が遊ぶ姿を見かけることはほとんどありません。食堂は毎月1回、50〜70食をテイクアウトで提供しています。利用者の割合は1は高齢者、近くに親戚がいない方も多いので、安否確認のためにお連絡の情報をスタッフが声掛けをすることにしています。あるとき、自分に何ができるのか、考えそやられた出来事があります。毎週食事を届けていたから、「あなたはもういらない」と言われたのです。それは、親族の方がなかなかうまくいかなかったと思いましたが、その後体調を崩されて入院。そこの親戚の方に「あなたはもうやって来ないでいい」と言われたのです。最初はびっくりしましたが、「あなたはもういらない」と言われたのです。それは、親族の方がなかなかうまくいかなかったと思いましたが、その後体調を崩されて入院。そこの親戚の方に「あなたはもうやって来ないでいい」と言われたのです。最初はびっくりしましたが、「あなたはもうやって